

青梅市文化財ニュース

第320号

平成26年6月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会
青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

神社のまつり

まつりという^{みこし}と、神輿が街を練り、人々が大勢集まり、露天が店を出し、皆が浮き浮きする様子を思い浮かべる方が多いと思います。本来「まつり」は、神様をお祀りする事やその儀式である祭典を指します。街の賑わいの中で、神社では厳粛な祭儀が執り行われています。祭は神輿が繰り出すような大きなものもあれば、毎朝神様のお食事である^{しんせん}神饌を^{にっく}供^{さい}祭、個人の様々な願いのご祈祷など様々です。

毎年決まった日に行う祭を恒例祭といい、大祭・中祭・小祭に分けています。神社により違いはありますが、最も重要な祭儀である例祭や豊作や繁栄を願う^{きねんさい}祈年祭、それを感謝する^{いなめさい}新嘗祭などが大祭、年初の^{さいたんさい}歳旦祭や建国記念日の^{きげんさい}紀元祭などは中祭、毎月行う^{つきなみさい}月次祭や日供祭などが小祭に分類されます。それに対し、初宮や七五三、家を建てる前の地鎮祭など、人々の依頼により行うご祈祷もまつりです。

神社本庁の規定による例祭の式次第は以下の通りです（旧仮名遣い）。

1.当日早旦社殿を装飾す

社殿清掃^{しで}や紙垂（締め縄に垂れている紙）などを新調し、神饌や祭具を準備します。

2.時刻宮司以下祭員^{けんぺいし}献幣使総代及び氏子崇敬者参進 是より先手水の儀あり

祭典を行う神職や、^{へいはく}幣帛という神様への捧げ物を神社本庁から持参する献幣使、信者の代表の総代など参列者が神社に向かいます。

寺社の入り口の手水舎で、身を清めてからお詣りするように、祭儀の前にも手水を行います。海や川での沐浴潔斎を形式化したものとされます。

3.次に宮司以下祭員^{けんぺいし}献幣使総代及び氏子崇敬者^{はらへじよ}祓^つ所に著く

4.次に^{しゅばつ}修祓 祭員参列者をさらに^{はらへ}祓い清めてから社殿に向かいます。

5.次に宮司以下祭員^{けんぺいし}献幣使総代及び氏子崇敬者所定の座に著く

6.次に宮司一拝 諸員^{なら}之に倣ふ

7.次に宮司御扉を開き畢りて^{をは}側^{かたはら}に候す 此の間奏楽警蹕^{けいひつ}諸員平伏

本殿の扉を開ける際、「オー」という警蹕がかかります。宮司は御扉が開いている間、本殿の傍らで^{しこう}伺候します。

8.次に^{ごん}権宮司若しくは^{ねぎ}禰宜以下祭員神饌を供す 此の間奏楽

神饌は現在生饌といわれる生のものが一般的で、お米、お酒・お餅・魚・^{かいさい}海菜・野

菜・果物・塩・水などがお供えされ、祭の重さによって品数が変わります。それに対し、調理された神饌を熟饌^{じゅくせん}といい、伊勢神宮では、毎朝若水を汲み、火鑽^{ひきり}で忌火^{いみび}を起し、御飯を炊いて朝夕神様に供えます。



献饌

9.次に宮司祝詞を奏す 此の間諸員平伏

10.次に権宮司若しくは禰宜本庁幣を献ず

11.次に献幣使祭詞を奏す 此の間諸員平伏

12.次に楽を奏す 巫女舞や宮司舞、地元の芸能などを奏上します。

13.次に宮司玉串を奉りて拝礼 権宮司若しくは禰宜以下祭員列拝

14.次に献幣使玉串を奉りて拝礼 随員列拝

15.次に総代玉串を奉りて拝礼 氏子崇敬者列拝

16.次に権宮司若しくは禰宜本庁幣を撤す

17.次に権宮司若しくは禰宜以下祭員神饌を撤す 此の間奏楽

18.次に宮司御扉を閉ち畢りて本座に復す 此の間奏楽警蹕諸員平伏

19.次に宮司一拝 諸員之に倣ふ

20.次に宮司以下祭員献幣使総代及び氏子崇敬者^{なほらひ}直会所に著く

21.次に直会

祭典に当たり神職は、齋戒^{さいかい}といわれる清浄な状態で臨みます。水やお湯で身体を清める潔齋^{けっさい}をし、食事は獣肉や臭いのきつい葱・ニンニクなどを避け、調理に当たって火を異にします。古くは大きな祭儀で1ヶ月にわたり齋戒が行われましたが、現在では大祭などの場合1日、小祭では当日早朝齋戒する事が多いようです。

直会^{なおらい}とはそうした清浄な状態で祭儀が終了した後、神様にお供えしたお食事を神職や参列者がいただくことをいいます。一般には神社でのご祈祷や地鎮祭の後、「かわらけ」という小さなお皿で、神様にお供えしたお酒をいただきます。また、おまつり後の飲食をともなう宴会も直会といえます。直会の語源は「なほりあひ」ともいわれ、祭儀に当たり身を清めた「齋^{いみ}」の状態から平常に「直る」意とされます。

22.次に各退出

まつりとは、お招きしたお客様をおもてなしするように、神様をおもてなしする様を儀式化したものといえ、種類は様々ですが次第はおおむね同じです。

(文責:須崎 直洋)